

個人指導の原理

<指導に入る前の指導する側の心構え>

- ①個人指導は吾々の力で指導するのではない。指導させて頂くのである。
「吾一人では何事もなしえず、天の父吾においてなさしめ給う」
「吾が業は吾が為すにあらず、天地を貫きて生くる祖神の権能」とあるように神がなさしめ給うのであるから、
必ず指導の前に招神歌を唱え「神のお導きをみ心のままになさしめ給う」と祈り、神は愛であるから愛の心をもって「祈る人・神・受ける人」の三者の愛が一体となるよう心掛ける。
- ②相手の悩み、苦しみ、問題をまず相手の心に寄り添って、存分に聞いて差し上げる。そして“大変でしたね” つらかったですねえ・・・。“と同慈同悲の心を起こし、“でも大丈夫ですよ！生長の家の真理を学べば必ず解決しますよ！”と現象を認めず（実相直視）、相手を神の子として祝福礼拝し、明るく確信にみちた言葉で安心して頂き、心開いて頂く。
- ③実相とは、現象とはをはっきり区別し説明する。
『今現れてる現象の世界の色々な問題（病気、失業、倒産、問題児、夫婦不調和 等）はあるように見えてるが本来存在しない。その人の迷いの具象化である。問題を心で掴んでよくしようと思うのではなく、神様の創られた実相の世界は、絶対善であり、完全に悪も罪もない。今現れている悪とみゆる現象は浄化作用（ケカハラセ - ヲソ）であり消えていっている（良くなっていっている）過程であり、良くなると信じて心を神の方向に振り向けば（観の転換）好転する』という真理を説明する。
- ④もし憎んでいる人がいたら赦し和解する。周りのすべての人、事、物に感謝し調和すれば神と波長があうようになり、神の救いの霊波を受けることができる。
- ⑤現象の善くなる事も大事ですが魂の救いを目的とし、愛の生き方ができるように指導する。
生長の家の行事（練成会、誌友会、母親教室、ミニイベント 他）にお誘いし、今の生長の家の活動を通して、自然と人間が、調和した新しい文明の構築のため、次世代の子供たちに美しい地球を残すために地球の自然の負荷を与えないような、エシカル（倫理的）なライフスタイルの転換ができるよう、PBS 活動を紹介したりミニイベントに誘ったりして、愛を出す生き方ができるようお世話活動をする。

根本原理

- 生命の実相の自称円満（そのままえんまんなこと）を自覚すれば大生命の癒力（なおすちから）が働いてメタフィジカルヒーリング（神癒）となります。

神癒→治病、繁栄、教育、夫婦調和 等々

- 健康、幸福、繁栄、その他一切の善きものは既に神様の世界にあり、すでに吾々は与えられ済み、救われ済みであることを神想観を実修し自称円満な実相を自覚する。

（物質的方法によらず実相円満な自覚によって大生命の力を呼び起こして一切の不幸を癒して頂く

- 「病なし、迷いなし、罪なし」これが生長の家の根本真理であります。

——谷口雅春先生のおことば

実相

縦の真理
(唯神実相)

——見ることはできないが本来あるもの（実在）、神の霊なる理念によって創られたる世界で完全円満、あるのは善のみの世界。
久遠生き通しの神の生命。消えない。

現象

横の真理
(唯心所現)

——あるように見えているが現れているだけで本来ない。（非実在）
肉体、環境は心の影。人間の想念によって創られたる世界、心の法則が働く世界。心で認めたものが現れる。
だから、もし現象に不幸と見ゆるべき問題が現れていても現れているだけで、本来ないものであるから永遠性がなく、その人の心を変えれば、消えるしかない。

心の法則——①原因・結果の法則（蒔いた種子は必ず生える）
②同類・親和の法則（類は類を呼ぶ）
③動・反動の法則（与えたものは与え返される）

- 高級霊のお導き（霊的な協力）——先祖供養も必要。父母に感謝。
流産児がいる場合、心を含めて供養する。

以上の生長の家の根本教義をしっかりと理解し、把持して指導にあたる。

治病——神癒を基盤として病気なしを説明、和解が解決の鍵

- 病気は第一義的には本来ない。神は病気を創り給わないからない。だから病気の重いも軽いもない。

ただ肉眼で見れば、あるように見えるがこれは迷いの心が、具象化したものにすぎない。

<神癒の原理>

- 「人間の生命の本質は、神の生命であり完全円満である」ということを日々神想観を実修し、神の子の自覚を得る。
この真の人間を自分において観る時、自己治療が行われ、他人において観る時、他人治療が行われる。
- 否定と肯定の思念法を用いる
現象の否定——病気本来なし、だから未だかつて病んだものはいないと否定する。
実相の肯定——本当の自分は神の子で完全円満
病気を癒やすのは自己に宿る生命（実相）のみであるから内なる神の生命を信じ礼拝し、病欠の観念を心から放し神に任せる。
- 懺悔と感謝
憎んでる人を許し全てに感謝し（特に父母に感謝する）和解すれば感謝は全てを癒す
病気は迷いの浄化作用（ケミカライゼーション）であり、その症状に感謝する。
- 先祖供養——普段から先祖や守護霊にも感謝。
- 三正行の実践（真理をわがものとするための行）

繁栄——一切の富は神より来たる、徳積が切れると井戸水はポンプから流れない、迎水の愛が必要。

- 人間は「本来神の有り給える無限の供給の継承者であるのである。」と信じる。
- 神は人間を神の子とみとめ、愛してい給う。それ故に吾々が人間を愛する心を起こして最大多数の最大幸福のために動き出す時、事業は自然に繁栄と幸福の大道を進むこととなる。
- 常に神の智慧に導かれている者は、世間の需要の移り変わりを俊敏にとらえて、世間の人達が求めているものを送り出し、送り出すから常に不景気を知らない。まず、「与えよ。さらば与えられん。」である。

（「生命の実相」8巻 P112～）

無限供給の扉を開くには

- 1、神と人との正しい関係を知り、一切の供給の本源は神より来たることを理解する。（神は無尽蔵であるから縦取りをする。横取りはダメ）
- 2、“自分は神の子であり、神の持給える一切の善きものを自分も又、分かち持つのである”という自覚を持つ。
- 3、最大多数の最大幸福を祈り、自分の天分に適うところのアイデアを神に祈り受け、そのアイデアを勇

敢に敏速に実行する。(自給他足、他給自足＝自然流通)

4. ・ **父性原理**と**母性原理**の両方必要とする。

父性原理——富の本質は「人のためになる働きの中にある」と自覚し出して与えることを実行する

母性原理——天地一切のものへの感謝、先祖や協力者への感謝と調和、どんな事もよろこんで受ける、心の器を大きく豊かにする。

「与える働き」と「受ける働き」が整った時、富はそこから生まれてくる。

- 5、求めよ。さらば与えられん真理により、祈りによって神の^{みこころ}懐から心の内により必要なだけ呼び出す。
(「生命の実相」2巻P167～)

教育——生長の家の教育(「生命の実相」14・25巻)——親の生き様(夫婦調和、中心帰一)

が鍵。

- 1、教育の基本は子どもはみんな神の子、天才、個性天分が与えられているので、子どもの実相を観て内在の神性仏性(無限の可能性)を信じ、コトバの創化力を駆使して祈りと愛語と讃嘆によって引き出す

＝**引き出しの教育**

- 2、こどもの伸びる力は「生命」の伸びる力である。生命は解放されてはじめてスクスク伸びるのである。親の念で縛らない——信じて放つ＝**放つ教育**

- 3、児童に宿る無限の可能性、(無限力)を信じ、発見し賞め激励し、自信を高め、勉強に興味をもたらしめることである。

- 4、子どもの五つの願いを叶えるように努力する。(愛されたい・認められたい・ほめられたい・自由になりたい・お役に立ちたい)

- 5、子供の健康や性格、成績は両親の精神的調和が大切。

- 6、恐怖心と劣等感(コンプレックス)を与えない(よろこびを与え、明るい子に育てる)——日時計主義で育てる。

- 7、流産児がいる場合はその供養を心を込めて行う。

- 8、子供の現象の悪にとらわれず、ただ実相を観ずる**観の教育**であり、それを信じ待つ**愛の教育**でもある。

※文章問題——“受験論文作成のポイント”を参考にして学習し自分なりの文章に

まとめる。